

概要版

第4次 延岡市工業振興ビジョン

共に挑戦し、
成長が続く産業都市 延岡
—ここで働き、未来を創る—

延岡市

第3次ビジョンの到達点と課題

第3次ビジョンは、企業の意識改革や行動の芽を生み出すという点で一定の成果を挙げた一方で、取組の継続性や横展開、地域全体としての変化を実感できる段階には至っていない。経営計画策定率の低さ、施策間の連動の弱さ、新事業の事業化・拡大、人財循環の仕組みが未成熟といった問題が明確になったこと自体が、第3次ビジョンの重要な到達点である。

成果

- ✓ **意識改革**
経営課題に向き合う企業が増加
- ✓ **挑戦の芽**
新製品・サービスの試作支援
- ✓ **人財**
地元企業を知る機会の創出

課題

- ⚠ **点から線・面の取組へ**
取組が個別的・断片的
- ⚠ **中長期経営計画の明文化**
中長期的視点が未定着
- ⚠ **人財循環の構造化**
確保・定着に問題

個別支援から経営を軸にした一体支援へ

地域産業の成長のメカニズム

第4次ビジョンの実現を担う主体は工業分野に関係する企業を想定する。

民間企業を起点とする経済活動は、多様な主体（機関）の合意形成と協働で成り立っている。



自助（企業）を起点に回り始める自助・共助・公助の産業成長メカニズム

『共に挑戦し、成長が続く産業都市 延岡』 －ここで働き、未来を創る－

【このスローガンに込めた想い】

挑戦する企業や人（自助）が多い地域には、自然と活気と面白さが生まれる。そこには人が集まり、新たな出会いや学びが生まれ、さらに次の挑戦を後押しする好循環が形成される。その循環を、業界や地域の連携（共助）が支え、行政が制度や環境整備を通じて後押し（公助）することで、挑戦は一過性のものではなく、地域に根付いた成長へとつながっていく。

こうした考え方を表現する言葉として、本スローガンを掲げる。

工業振興ビジョンの全体像と目指す姿

戦略の柱A

【経営改革・生産性向上】 （経営計画×現場改善×DX）

〔将来像〕

- 自社の経営計画が策定されている
- 利益をあげるための基盤が確立されている
- 自社分析が適切になされており、明確な方向性が示されている
- 現場改善やDX化が進み、効率化が図られている
- 経営を担う人財の育成ができています
- 自動化・省人化が進んでいる

戦略の柱C

【新事業創出・協働】 （実証×事業化）

〔将来像〕

- 成長領域に関する調査を基に新規事業分野への進出が出来る
- 技術の習得や既存技術による展開分野の拡大ができています
- 実証フィールドとして新技術やサービスが集まっている
- 新たな取組に対し十分な資金調達ができる
- 既存品の新たな魅力創出PRができる
- 地域内外の企業間連携が促進されている

戦略の柱B

【人財育成】 （循環・定着・多様な人財）

〔将来像〕

- 事業運営に必要な人財が安定的に確保されている
- 企業の魅力が明確化され、社会に周知されている
- 多様な人財が地域や組織で活躍している
- 体系的な人財育成のスキームが確立されている
- 地域や組織を担うリーダーが育成されている

戦略の柱D

【産業基盤整備】 （産業用地・インフラ整備） ※行政主導

〔将来像〕

- 事業拡大に向けた用地確保がされている
- 津波等の災害に対して、BCP（事業継続計画）に応じた用地確保がされている
- 道路・物流網と連携したインフラ整備がされている

第4次ビジョンにおける戦略の柱とアクションプラン

A 経営改革・生産性向上

経営計画を起点として、現場改善・DX/AXを一体的に推進し、中小企業の持続的な生産性向上と競争力強化を図る。

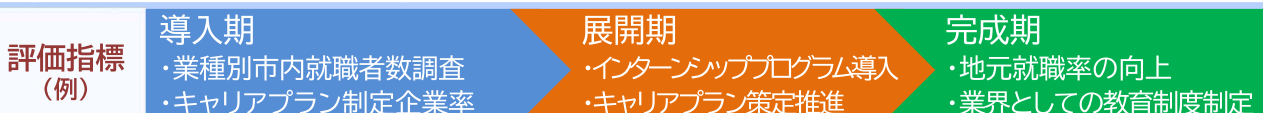
アクションプラン	各主体の取組み視点（例）
1 経営計画×現場改善の一体推進	[自] 社内一丸で自社経営目標に向かう仕組み作りと実践 [共] 経営計画策定に対する関係機関による支援 [公] 経営計画策定や生産性向上支援（現場改善/人財育成支援）
2 経営者・後継者育成	[自] 経営知識やマネジメント力の向上と経営への実践 [共] 経営者・後継者同士の交流や勉強会を通じた知見共有 [公] 経営人財育成研修等の参加支援
3 DX/AXの段階的導入	[自] 自社の業務課題を整理とデジタル技術の段階的活用 [共] 企業同士が連携によるノウハウ共有や相談対応 [公] DX導入支援制度の整備等を通じた導入の後押し
4 共用DX基盤活用	[自] 共用DX基盤を活用した業務の効率化やデータ活用 [共] 企業間でのデータ連携や共同利用ルールの構築 [公] 共用DX基盤の構築・運用支援や実証事業の実施



B 人財育成

人財確保を「採用」だけでなく、「循環・定着・活躍」まで含めて捉え、企業と地域が協力して人財基盤を強化する。

アクションプラン	各主体の取組み視点（例）
1 人財循環の「見える化」	[自] 求人内容や働き方、求める人財像の明確化と積極的な情報発信 [共] 関係機関の連携による求人情報の集約や情報共有 [公] 人財情報を可視化する仕組みの構築・運用
2 地域産業の魅力発信による地元定着推進	[自] 自社の魅力を向上と地域へ発信 [共] 教育機関と産業界の連携による、継続的な学習・体験機会の創出 [公] 産学連携事業やキャリア教育の支援
3 移住・U・I・Jターン促進	[自] 移住者・U・I・Jターン者の受け入れ体制整備や職場環境づくり [共] 地域団体の連携による生活・就業面でのサポート [公] 移住支援制度や情報発信を通じた人財流入の取組
4 多様な人財が活躍できる環境づくり	[自] 多様な働き方の導入による、個々の能力を活かす環境整備 [共] 関係機関が連携による、受け入れノウハウや事例の共有 [公] 制度周知や相談体制整備を通じた環境づくりの支援
5 キャリア形成支援	[自] 従業員のキャリア形成の支援と教育・研修機会の提供 [共] 教育機関と連携した、実践的な学びの場の提供 [公] 人財育成施策や研修支援。
6 地域次世代リーダーの育成	[自] 学びを自社や地域活動に活かし、主体的に行動 [共] OB・現役の連携による相互研鑽と地域貢献 [公] 育成塾の運営支援や活動の場づくりの支援



第4次ビジョンにおける戦略の柱とアクションプラン

C

新事業創出・協働

社会課題・技術シーズを起点に、実証から事業化までを一貫して支援し、新事業の創出と企業との共創・協働を推進する。

アクションプラン	各主体の取組み視点（例）
1 アイデア創出・事業化支援	[自] 新たな発想の積極的な事業化 [共] 企業や支援機関が連携による、アイデア検討や実証 [公] 事業化支援制度や実証フィールド提供
2 地域内外企業との交流・連携の強化	[自] 交流機会への積極的な参加および連携模索 [共] 交流イベントの企画・運営 [公] 交流機会の創出、広域連携の支援
3 実証フィールド活用	[自] 実証事業への参画と新技術導入の挑戦 [共] 研究機関と企業の連携による実証の推進 [公] 実証フィールド整備、調整支援
4 先端分野の裾野拡大	[自] 先端分野への挑戦と技術習得 [共] 産学官連携による情報共有や交流の促進 [公] 参入支援や国際交流事業の推進
5 ブランド・販路形成	[自] 品質向上やブランド意識を持った事業展開 [共] 共同PRや販路開拓 [公] ブランド形成支援や販路開拓支援事業の実施

評価指標
(例)

導入期

・新事業の洗い出し
・商談会等の開催、出展支援の充実

展開期

・新アイデアの事業化支援
・社会実験への取組実験

完成期

・市民、企業アイデアの事業化数
・延岡ブランドの確立数

D

産業基盤整備 ※行政主導

企業活動の前提となる産業用地・インフラを計画的に整備し、中長期的な産業集積を支える。

アクションプラン	各主体の取組み視点（例）
1 産業用地の計画的確保	[自] 用地ニーズの明確化や情報提供 [共] 関係機関の連携と用地情報の共有 [公] 計画的な用地整備と誘致施策の推進
2 用地活用の円滑化	[自] 計画的な土地活用の検討 [共] 関係者間での情報共有 [公] 制度整備や手続き支援
3 土場・残土への対応	[自] 適正処理と有効活用への協力 [共] 情報共有や共同活用 [公] 受け入れ体制整備や制度運用
4 インフラの連動整備	[自] インフラ活用を見据えた事業展開 [共] 地域として必要な整備内容の共有 [公] 関係機関との連携と計画的な整備

評価指標
(例)

導入期

・市内企業のニーズ調査
・産業用地の候補地選定

展開期

・IT企業の受入基盤整備
・用地の法制度整理と調整

完成期

・用地を求めない企業の誘致
・産業用地の確保

推進体制

第4次ビジョンの実効性を高めるため、取組の進捗を確認し改善につなげるPDCAサイクルを継続的に実施する。本ビジョンでは、戦略の柱ごとの分科会を中心に、推進コンダクター、市の事務局による、民間主導・行政支援型の体制を構築し、官民協働によりアクションプランの推進を図る。

分科会を中核としたアクションプラン推進体制

分科会 アクションプランの計画、実施、進捗管理、評価

- 経営改革・生産性向上分科会(仮称)
- 人財育成分科会(仮称)
- 新事業創出・協働分科会(仮称)

事務局 本ビジョン推進事務局

- 延岡市工業振興課 産業政策課

推進コンダクター アクションプランの推進
ビジョン具現化に向けた施策検討

- 産業界に広く精通し、豊富な知識と経験による指導や助言を行うことができる人財

ビジョン全体の参考指標

項目	現在値	参考値	把握方法	設定の考え方
1 製造品出荷額(億円)	3,735 (R5)	4,850 (R17)	経済構造実態調査	30%増加
2 製造業事業所数(カ所)	155 (R5)	155 (R17)	経済構造実態調査	現状維持
3 製造業従業員数(人)	7,938 (R5)	7,938 (R17)	経済構造実態調査	現状維持
4 経営計画の作成率(%)	44.3 (R7)	60 (R17)	独自調査	全国平均より10%高い
5 市内高校生の県内就職率(%)	64.17 (R6)	75 (R17)	労働局調査	県の目標値を参考とした
6 指定工場の指定件数(累計 件)	212 (R6)	272 (R17)	独自調査	1.3倍増
7 産業団地の整備(累計ha)	-	11.6 (R17)	独自調査	産業用地整備計画上の数値
8 工業振興ビジョンの認知度(%)	16.2 (R7)	75.0 (R17)	独自調査	7割超が知っている

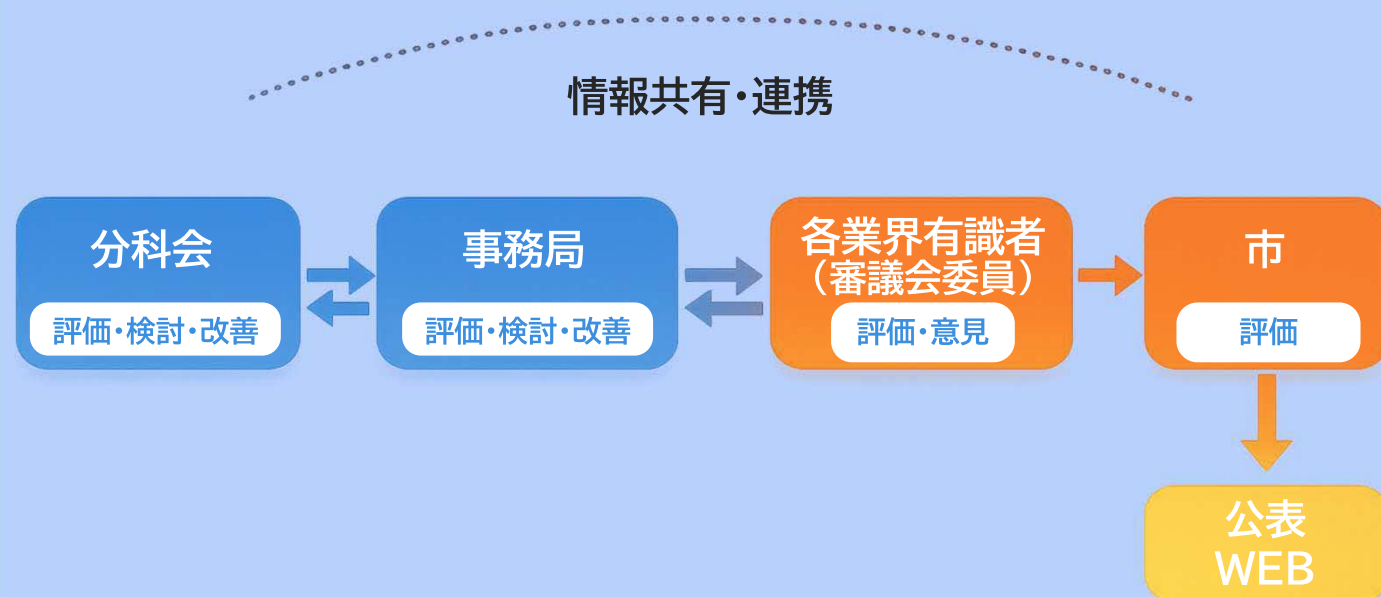
10年間のロードマップ

本ビジョンは、令和8年度からの10年間で「導入期」「展開期」「完成期」の3段階に区分し、取組を段階的に推進する。各分科会において毎年アクションプランの取組状況を振り返り評価するとともに、各期の節目で内容の見直しや全体評価を行い、その結果を公表することで、環境変化に対応しながら継続的な改善を図る。



評価・公表のスキーム

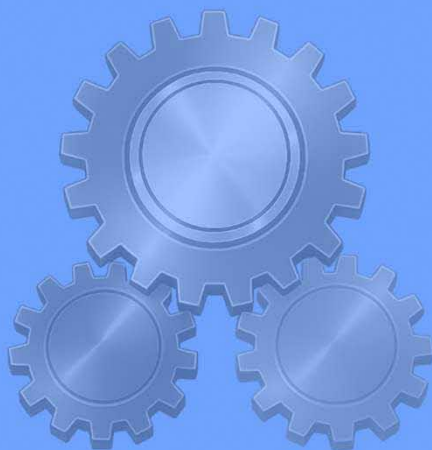
本ビジョンの毎年の評価については、進捗と成果を透明性をもって確認するため、まず各分科会と事務局が評価・検討・改善を行い、その内容に対する有識者の評価・意見を加え、最終的に市として評価した結果を公表する。



第4次延岡市工業振興ビジョン



ホームページ



第4次延岡市工業振興ビジョン -概要版-
令和8年3月発行

延岡市工業振興ビジョンに関する問い合わせ
延岡市商工観光文化部工業振興課
〒882-8686 宮崎県延岡市東本小路2番地1
電話(0982)22-7035
メール kougyo@city.nobeoka.miyazaki.jp